

令和 6 年度 一宮社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	葉 栗 小 学 校	学校No.	6
-------	-----------	-------	---

1 福祉教育の取り組み

本校では、ここに示す児童の育成のために重要な役割を果たすものとして、福祉教育を位置付けている。

- 差別や偏見を許さない子
- 自他を大切にし、ともに高め合っている子

発達段階におけるめあて

低学年	友だちとなかよくできる葉栗の子
中学年	友だちのよいところを見つける葉栗の子
高学年	友だちの気持ちが分かる葉栗の子

2 福祉教育の具体的活動の内容

(1) 一宮特別支援学校との交流活動（年間）

一宮特別支援学校との交流は、本校の教育活動の特色の一つである。例年、特別支援学校の子どもたちを迎え、学年ごとに、歌や楽器の演奏をしたり、ゲームをしたりしながら一緒に楽しい時間を過ごしている。今年度も、楽しく交流をすることができた。今まで伝承してきた、互いの交流関係を大切にしながら、会の在り方を模索し、活動が継続していけるようにしていきたい。



特別支援学校との交流活動

(2) 福祉実践教室（9月）

5年生では、福祉実践教室を行った。体の不自由な人の立場になり、思いやりある温かい人間関係をつくり、優しい言動ができるようにすることがねらいである。今回は車椅子やガイドヘルプなどの体験を行った。どの児童も熱心に講師の先生の話を聞き、充実した活動ができた。「困っている人を見かけたら、寄り添い、助け合いたい」と考えた児童も多くみられた。

(3) 人権に関する取組（10月・12月）

差別や偏見のない子をめざし、毎年人権週間を設け、取り組んでいる。10月にはいじめ防止標語コンテストを実施し、児童の作った標語を掲示した。



人権に関する取組

12月には、児童会と代表委員会が全校放送で発信したり、各学級で、普段使っている言葉遣いについて見つめ直したりした。これらの活動を通して、相手を思いやる行動の大切さについて考えを深めることができた。

3 福祉教育の成果と今後の課題

特別支援学校交流や人権に関する取組を通して、相手を思いやって行動する児童の姿が増えてきた。また、SDGs に関することを調べることで、自分のできることを主体的に考えるようになった。今後は、自分のできることから実践しようとする姿勢を育てることを目標にしたい。



SDGs に関する取組

2024年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立西成小学校	学校No.	7
-------	-----------	-------	---

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

- ・ 目標…障害のある人々や高齢者との交流を通して、お互いの良さを認めあい、心豊かな生活ができるようにする。
- ・ 計画…学期に1回の一宮東特別支援学校との交流活動
福祉実践教室における体験活動
見守り隊お礼の会での感謝の手紙の作成
- ・ 推進体制…社会福祉推進担当者会を組織し、各計画を具体的に推進する。

2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

- ・ 「生」教育助産師グループOHANAによる「いのちの授業」を実施した。
- ・ 「体育発表会」「6年生を送る会」に、見守り隊の方を招待した。
- ・ 「見守り隊お礼の会」を開催し、日頃の見守り活動へのお礼として、全校児童が書いた感謝の手紙を渡した。
- ・ 赤い羽根の募金活動を行った。
- ・ 発展途上国へワクチンを送るためのエコキャップ回収活動を行った。
- ・ 人権標語を募集し、人権について考えさせ、人権尊重の心を育成した。
- ・ 5年生が福祉実践教室を行い、車いすや点字の体験活動を行った。
- ・ 一宮東特別支援学校の児童と互いの学校を訪問し合い、交流した。（1学期・2学期）
- ・ 一宮東特別支援学校の児童と作品交換をして、作品鑑賞を行った。（3学期）

3. 福祉教育の成果と今後の課題

- ・ 自分と同年代の特別支援学校の友だちに接する中で、思いやりの心を育成することができた。
- ・ 体験を通して障害を持っている人とのコミュニケーションの方法を知り、障害を持っている人への接し方について理解を深めることができた。
- ・ 福祉に関する募金活動や支援活動を通して、支援を必要とする人についての理解を深めることができた。
- ・ 人権標語の募集の取り組みにより、共感し合って温かい人間関係をつくることの大切さを考えさせることができた。
- ・ 人権に配慮した情報モラル教育、ネットにおける個人情報の流出、プライバシーの侵害について考えさせ、情報の収集・発信における個人の責任を理解させた。
- ・ いじめの未然防止に向けて心の教育を推進し、教育相談体制の充実を図った。

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

2024年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立瀬部小学校	学校No.	8
1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制） 全校：あいさつ運動、募金活動 学年：5年生総合 ・福祉についての調べ学習 ・福祉実践教室 2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録） 全校：あいさつ運動・・・あいさつする習慣づけの声かけ、ポスター掲示 募金活動・・・ポスターで呼びかけを行い実施 学年：5年生総合 ・福祉についての調べ学習・・・本やインターネットで調べ、調べたことをクラスで発表 し、作品展で掲示した。 ・福祉実践教室・・・点字、手話、車いすに分かれて実践を行った 3. 福祉教育の成果と今後の課題 調べ学習・・・自分が興味を持ったテーマについて調べたので、意欲的に調べることができた。 実践・・・実際に車いすに乗って体験できたので、段差や後ろ向きに進むときの怖さや曲がる ときの不便さを知ることができた。実際に目や耳の不自由な方に子どもたちから質問 することができたのでよかった。			

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

令和 6 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立赤見小学校	学校 No.	9
-------	-----------	--------	---

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

- （目 標） ・障害をもっている人が社会の発展に平等に参加し、平等に利益を受けられる社会の大切さについて理解を図る。
 ・ボランティア活動を計画・実践する中で、自分を生かしながら、他の人（友だち・先生・お年寄り・保護者・地域の方）とともに、よりよく生きていこうとする態度や自覚を育てる。
- （計 画） ・11月・・・・・・福祉実践教室
 ・11月・・・・・・人権週間
- （推進体制） ・5年生の“総合的な学習の時間”を利用する。
 ・11月の“人権週間”では、全校体制で取り組む。

2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

- 5月 《全校児童》 緑の羽根募金活動
 11月 《全校児童》 赤い羽根募金活動
 《5年児童》 福祉実践教室（車椅子体験、ガイドヘルプ体験）
 《全校児童》 校長による人権講話（人権週間）
 《4～6年児童》 人権教室・動画視聴（人権について）
 1月 《5年児童》 福祉について学んだことを発表（学校公開日）
 《全校児童》 書き損じハガキ収集
 通年 《全校児童》 あいさつ運動、ベルマーク収集
 地域の方とさつまいもの栽培



車椅子体験



人権教室



校長による人権講話

3. 福祉教育の成果と今後の課題

5年生の総合的な学習の時間において、「福祉実践教室」を実施した。児童は車椅子体験やガイドヘルプ体験を行い、自分たちの日常生活と障害を持つ方々の生活の違いを知るとともに、どのような支援が可能であるかを考える機会を得た。事前に福祉について調べ学習を行っていたため、体験や話を通じて福祉の重要性を改めて認識することができた。今後は、児童一人一人の福祉に対する意識をさらに高め、日常生活の中で実践できる力を養うことを目指していく方針である。そのために、現在できることを児童とともに検討し、計画的に実行していきたいと考えている。

2024年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立浅野小学校	学校 No.	10
-------	-----------	--------	----

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

教育活動全体を通して、福祉教育の充実を目指し、地域の特色を生かした体験的な活動を推進する。また、社会福祉への理解と関心を高めボランティア・社会連帯の精神を養う。障害を理解するための福祉実践教室を開催し、体験を通して、児童に障害を理解させ、福祉の心を養う。

○福祉実践教室での体験活動（5年生）
○全学年による各種募金活動・あいさつ運動

2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

○5年生は、福祉実践教室で車いす体験・点字・手話の講習を受けた。
○児童会が中心となって、緑の羽根・赤い羽根の募金活動を行った。
○児童会や6年生が中心となって全校児童参加しての「あいさつ運動」に取り組んだ。
○福祉に関して、タブレット端末を用いて調べ学習を行い、学習発表会で発表した。

3. 福祉教育の成果と今後の課題

○成果
・福祉実践教室での車いす体験・点字・手話の体験を通して、障害者の気持ちを理解することができた。また、調べ学習を通して障害についての知識をより深めることができた。

○今後の課題
・今年度購入した担架を実際にけがや体調不良等の児童のために活用するとともに、福祉実践教室でも活用をしていきたい。

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。